

麦作情報第1号

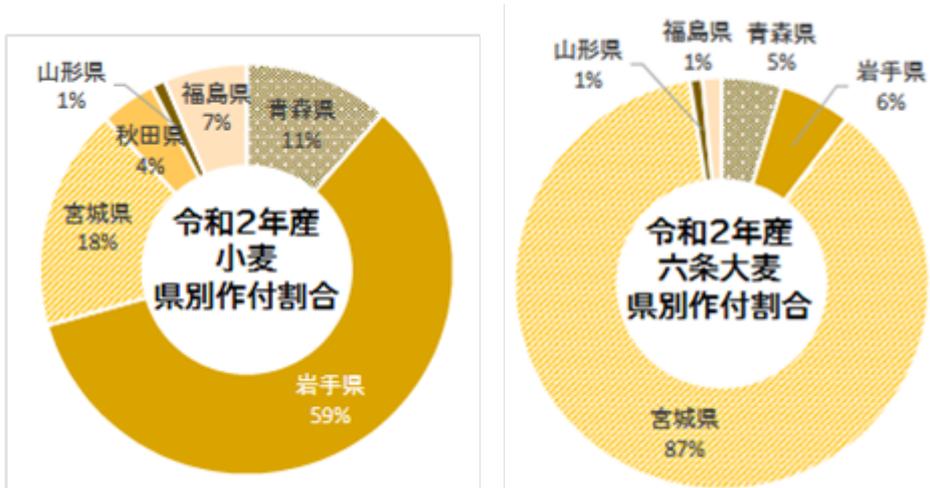
令和3年10月1日：JA全農みやぎ

～麦の栽培ポイントは、「適期播種」と「排水対策」！！～

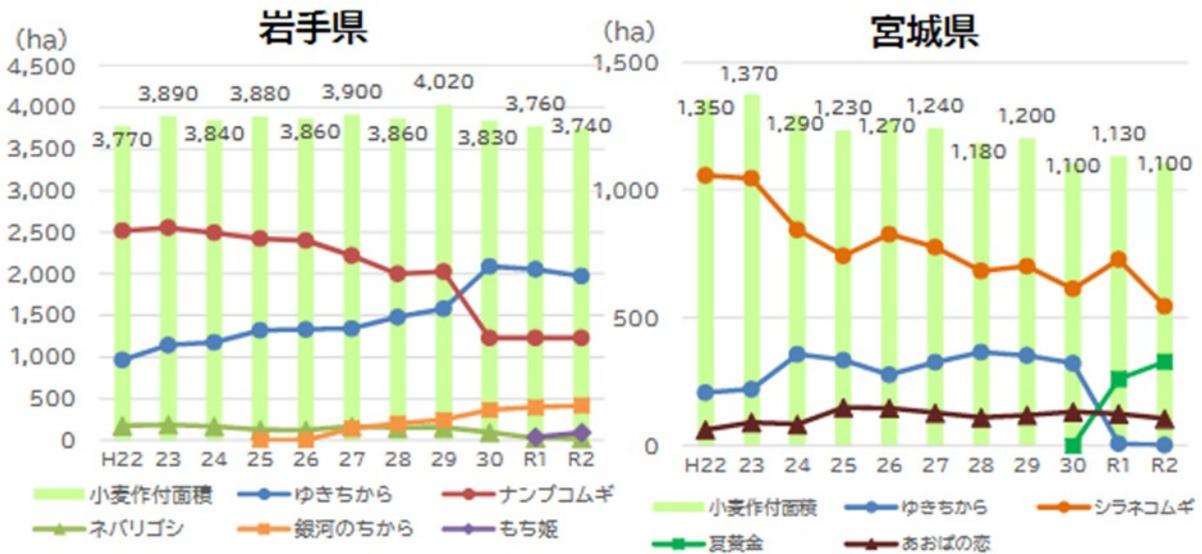
1 宮城県を中心とした麦の生産概況

(1) 東北地方と主産県の収量・品質【東北農政局 東北地方における麦をめぐる事情より】

- ・小麦の作付面積は、岩手県の3,740ha(59%)に次いで多い1,100ha(18%)を占めている。
- ・大麦は宮城県が東北一の1,160haで東北地方の87%を占める主産県である。



- ・小麦主要産地の岩手県では作付面積は概ね横ばいである。近年は、パン・中華めん用に適した「ゆきちから」に加えて「銀河のちから」が増加傾向にある。
- ・宮城県の小麦作付面積は、やや漸減傾向にある。パン・中華めん用に適した品種として、令和元年産から「ゆきちから」に代わり「夏黄金（なつこがね）」の作付が開始され、面積が増加している。



- ・東北地方における検査等級比率は、県ごとにバラツキがみられる。
- ・1等比率は小麦では岩手県が比較的安定して高く、六条大麦では秋田県が高い。他の県は低位傾向であったり、年による変動が大きい。

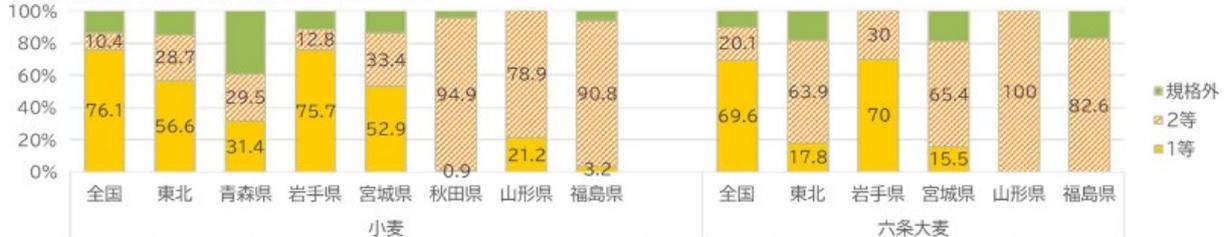
令和2年産の検査結果(等級比率)



令和元年産の検査結果(等級比率)



平成30年産の検査結果(等級比率)



資料:農林水産省「令和2年産麦の農産物検査結果、令和元年産麦の農産物検査結果、平成30年産麦の農産物検査結果(いずれも確定値)」

(2) 宮城県の令和3年産の生育と品質概況【古川農業試験場 麦類作況試験より】

1) 播種～12月

- ・播種期～出芽期前後の気温は概ね平年並みで、出芽日数は概ね平年並みであった。
- ・出芽は概ね良好であったが、年内生育は品種間で異なり「シュンライ」及び「夏黄金」は草丈・茎数とも平年を上回り、「ミノリムギ」では草丈は平年より長かったが茎数はやや少な

かった。「シラネコムギ」は草丈・茎数ともに平年を下回った。

2) 2月の生育

- ・大麦は草丈が平年より長く、茎数は「シュンライ」が平年よりやや多く、「ミノリムギ」は平年並みであった。
- ・「シラネコムギ」は草丈が平年よりやや長かったが、茎数は平年より少なかった。
- ・大麦「シュンライ」の幼穂形成始期は、2月20日で平年より20日程度遅かった。

3) 3月の生育

- ・「シュンライ」の草丈は平年並みで、茎数はやや多かった。「ミノリムギ」の草丈はやや短く、茎数は平年並みであった。
- ・「シラネコムギ」は草丈がやや短く、茎数はやや少なかった。幼穂形成始期は3月16日で平年より6日遅かった。

4) 4月の生育

- ・大麦は草丈が平年より長く、茎数は「シュンライ」が平年並み、「ミノリムギ」はやや少なかった。「シラネコムギ」は、茎数が平年値を下回った。
- ・3月は観測史上1位の高温となったため、幼穂形成始期は「シュンライ」及び「シラネコムギ」ともに平年より遅かったが、茎立期は平年より6日程度早かった。

5) 5月の生育

- ・出穂期は、「シュンライ」が4月23日で平年より3日、「シラネコムギ」は5月4日で平年より1日早かった。「ミノリムギ」は4月29日で平年並みであった。
- ・出穂期以降の気温はやや高く、成熟期は平年並み～やや早かった。

6) 作付面積と収量（下表参照）

- ・作付面積は小麦 1,064ha, 大麦 1,230ha で、収量は小麦 329kg/10a, 大麦 268kg/10a となった。

7) 品質

- ・小麦の1等比率は、63.7%で昨年産の最終をやや下回った。
- ・銘柄別では、「シラネコムギ」が一等比率76%と概ね良好であるが、「あおばの恋」は62.2%、「夏黄金」は50.9%に留まった。
- ・大麦の1等比率は7.6%で、前年より低位に留まった。

令和3年産 麦類の面積・収量・等級比率等（全農宮城県本部とりまとめ）

区分	品 種 名	作付面積 *1	集荷数量 *2	収量 *3	等級比率(%)	
		(ha)	(t)	(kg/10a)	1等	2等
小麦	シラネコムギ	549	1,662	303	76.0	24.0
	あおばの恋	83	321	387	62.2	37.8
	夏黄金	420	1,426	340	50.9	49.1
	銀河のちから	12	49	408	0.0	100.0
	その他	-	44	-	100.0	0.0
	小麦 計	1,064	3,502	329	63.7	36.3
大麦	シュンライ	497	1,263	254	5.6	94.4
	ミノリムギ	259	606	234	0.4	99.6
	ホワイトファイバー	451	1,415	314	12.6	87.4
	その他	23	18	-	0.0	100.0
	大麦 計	1,230	3,302	268	7.6	92.4

*1 実播種面積

*2 令和3年9月における最終集荷実績

*3 集荷数量/作付面積

（3） 昨年の病害虫発生状況【宮城県病害虫防除所HPより】

1) 赤かび病

- ・ 6月の巡回調査では、小麦の発生地点率は66.7%（平年57.7%）、発病穂率は4.6%（平年3.5%）で平年より高かった。大麦では、発生は確認されなかった。

2) うどんこ病・さび病類

- ・ 6月の巡回調査では、発生は確認されなかった。

2 東北地方の1か月予報【10月2日～11月1日までの天候見通し 気象庁HPより】

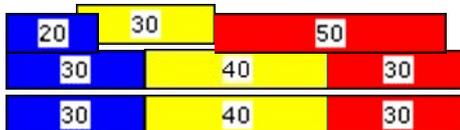
- ・ 期間の前半は気温がかなり高くなる可能性がある。
- ・ 気温は、高い確率 50%、平年並みの確率 30%、低い確率 20%。
- ・ 降水量は、多い若しくは少ない確率 30%、平年並みの確率 40%。
- ・ 日照時間は、多い若しくは少ない確率 30%、平年並みの確率 40%。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)〉

【気 温】 東北地方

【降 水 量】 東北地方

【日照時間】 東北地方



3 令和4年産麦類の生産に向けて

- ◆ 麦は、冬に向けて生育する作物なので、生育量の確保が最も重要である。（北ほど早い播種）
- ◆ 麦の播種後、生育促進や今後の生育確保のため、暗渠・明渠・弾丸等の排水対策を徹底する。

（1） 適期播種

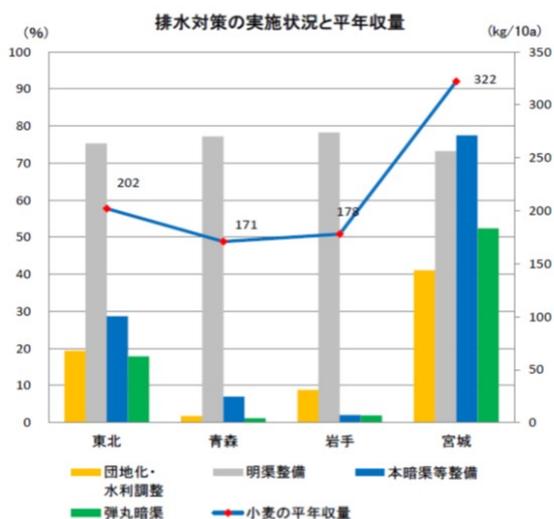
- ・ 播種が遅れると分けつの発生が遅れ、根張りも悪く寒害にも弱くなる。
- ・ 生育の遅れは、遅発分けつの発生が多く、未熟粒や硬質粒が発生して品質が低下する。

- ・播種量は、大麦で8～10kg/10a, 小麦で9～11kg/10aを基本とする。
- ・赤かび病等の防除のため種子更新, 選種, 種子消毒を確実に実施する。

【播種期】 北部平坦及び三陸沿岸地帯 晩限 10月20日
南部平坦地帯 晩限 10月30日

(2) 排水対策

- ・宮城県が東北地方で単収が高いのは排水対策による。
- ・圃場内にも明渠（30～40cm深）を設置し，本暗渠，弾丸暗渠を組合せる。
- ・排水不良田では，出芽後や冬季の寒害等で茎数が確保できない。



明渠設置
の麦圃場
(4月)